

名古屋市の街頭犯罪についての要因分析

2003MM106 玉田慶太

指導教員: 松田真一

1 はじめに

毎年日本では200万件以上の犯罪が起きている。そのうち街頭犯罪は約半数を占めている。街頭犯罪とは、道路、駅、駐車場、公園、その他公共の場所において発生する犯罪であり、都会を中心に近年増加傾向にある。街頭犯罪はわたしたちの身近なところで発生し、だれもが「何時どこで被害に遭うかも知れない」と不安に感じている犯罪である。そんな街頭犯罪が私たちの身の回りでのどのような状況で起きているのかを調べたいと思う。

2 データについて

データは愛知県警のホームページにある犯罪マップ[2]（7月の発生状況）を利用した。犯罪マップには愛知県で発生した街頭犯罪の場所が一件ずつ地図上に詳しく記されている。そこから名古屋市の「中村区」「昭和区」「千種区」「中区」「北区」「東区」「中川区」「名東区」「熱田区」「瑞穂区」の10区から515件の犯罪発生場所のポイントを集めた。街頭犯罪がどのような場所で起きているかをgoogleマップ[3]、アトラスRDX東海[1]を利用して一ヶ所ずつ調べた。街頭犯罪については、「ひったくり」「部品ねらい」「自動販売機ねらい」「自動車盗」「オートバイ盗」「車上ねらい」「自転車盗」の7項目を調べる。車上ねらいと自転車盗については発生件数が他の犯罪より多かったため、データ数をそろえるため車上ねらいを3分の1に、自転車盗を10分の1にランダムに絞った。

3 分析方法

分析方法は数量化II類とクラスター分析を用いた。

4 数量化II類による分析

7つの街頭犯罪を外的基準とし、「駅からの距離」「交番、警察署からの距離」「ショッピングビルからの距離」「地区」「道路」「区」をアイテムとして数量化II類で分析を行った。距離は犯罪発生場所から「400m以内」「400mから800m」「800m以上」をカテゴリとした。地区は「住宅地区」「商業地区」「工業地区」「その他の地区」とした。道路は「国道、県道、主要地方道」「その他の中央線がある道を」「中央線ない細い道」とした。区に関しては「中村区」「昭和区」「千種区」「中区」「北区」「東区」「中川区」「名東区」「熱田区」「瑞穂区」を扱ったので、それぞれがカテゴリとなる。

5 分析結果

515件すべてのデータで数量化II類を行った結果、第一軸は相関比0.194、第二軸は相関比0.117であった。しかし、これだけでは十分に説明することができないと考え、データを集める際、明らかに他の区と違うと感じた中区を除いた450件のデータで数量化II類を行った。その

結果、第一軸は相関比0.216、第二軸は相関比0.149となった。第三軸以降は相関比が低かったため使用しなかった。

表 1: 分析結果1

アイテム	カテゴリ	スコア	偏相関係数	範囲
駅からの距離	400m以内	-0.347	0.159	0.737
	400m ~ 800m	0.248		
	800m以上	0.390		
交番、警察署からの距離	400m以内	-0.379	0.176	0.733
	400m ~ 800m	0.355		
	800m以上	-0.533		
ショッピングビルからの距離	400m以内	-0.244	0.095	0.060
	400m ~ 800m	-0.046		
	800m以上	0.215		
地区	住宅	0.452	0.188	0.836
	商業	-0.384		
	工業	0.033		
	その他	0.442		
道路	主要道	-0.670	0.185	0.799
	一般道	0.225		
	細い道	0.329		
区	中村区	-0.347	0.169	1.386
	昭和区	0.186		
	千種区	-0.053		
	北区	-0.087		
	東区	-0.559		
	中川区	0.224		
	名東区	-0.126		
	熱田区	0.827		
	瑞穂区	0.423		
外的基準	ひったくり	-0.470	相関比 0.216	
	部品ねらい	0.665		
	自動販売機ねらい	0.486		
	自動車盗	-0.078		
	オートバイ盗	0.144		
	車上ねらい	-0.043		
	自転車盗	-0.787		

5.1 第一軸

「人気の少ない場所で発生する犯罪の軸」である。「部品ねらい」「自動販売機ねらい」はこの犯罪である。その多くは市街地から離れた住宅地区で発生している。「部品ねらい」はカーナビ、カーオーディオなどを盗む犯罪であるために時間がかかる。人の多い場所だとすぐ見つかるため人目につかない場所で行われている。「自動販売機ねらい」も同様に犯行に時間がかかるため、あまり目立たない場所で行われている。いっぽう「自転車盗難」「ひったくり」は「人の集中する場所で発生する犯罪」といえる。その多くは駅周辺や繁華街で発生している。「中村区」は名古屋市の鉄道の中心・名古屋駅を有し、名古屋の玄関的な役割を担っている。駅周辺には、国際センタービルを始め数多くの企業・金融機関などの集まる高層ビルや、終日賑わいを見せるデパート・商店街・地下街があり、この地方の経済活動の中心的機能を果たしている。また現在の名古屋駅前地下街は全長およそ6km、約400軒の店舗が並ぶ8つの商店街が網目のように広がり、買い物客でにぎわっている。「東区」はナゴヤドームやオアシス21がある。プロ野球やコンサートなどの各種イベントが開催され多くの人が集まる。また錦通・桜通を中心に、大企業の本社・支社などのビルが立ち並んでいる。「交番、

警察署から400m以内」で多く発生するのはそういった場所に配置されているからだと考えられる。

表 2: 分析結果2

アイテム	カテゴリー	スコア	偏相関係数	範囲
道路	主要道	0.781	0.278	1.534
	一般道	0.125		
	細い道	-0.752		
区	中村区	-0.008	0.227	2.004
	昭和区	0.850		
	千種区	-0.413		
	北区	0.555		
	東区	-1.154		
	中川区	0.026		
	名東区	0.211		
	熱田区	0.818		
	瑞穂区	-0.705		
外的基準	ひったくり	-0.785	相関比 0.149	
	部品ねらい	0.142		
	自動販売機ねらい	-0.373		
	自動車盗	0.534		
	オートバイ盗	-0.222		
	車上ねらい	0.136		
	自転車盗	0.362		

5.2 第二軸

「交通量が多い道路沿いで発生する犯罪の軸」である。「自動車盗」「自転車盗」は特にこの犯罪の傾向が強い。交通量の多い道路沿いには、パチンコ店や大型スーパーや飲食店やコンビニエンスストアなどの多くの店がある。そこには自動車を大量に駐車できる駐車場がある。その駐車場で「自動車盗」または「部品ねらい」「車上ねらい」の犯罪が多く発生しているのではないかと考えられる。また、名古屋市の地下鉄の駅の多くは国道、主要地方道沿いにある。「自転車盗」はその駅の駐輪場に留められている自転車が被害にあっていると推測できる。「昭和区」のスコアが高い理由は昭和区の中心を国道153号が通っているからである。同様に「熱田区」はに4本、北区には3本の国道が通っている。「昭和区」は高級住宅地があるので、そこにある高級車をねらった、部品ねらいや自動車盗が多く発生しているのではないと思われる。対照的に自動販売機狙いは細い道、またその周辺で多く発生している。細い道にあるマンションやオフィスビルの前にある自動販売機が被害に遭っていると考えられる。

6 クラスタ分析

数量化II類で求められた第一軸と第二軸のサンプルスコアをクラスタ分析を用いて分析を行った。

	第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	計
ひったくり	7	22	13	3	11	56
部品ねらい	9	3	4	34	33	83
自動販売機ねらい	4	6	1	7	18	36
自動車盗	16	1	10	11	7	45
オートバイ盗	11	12	7	15	21	66
車上ねらい	24	8	18	24	29	103
自転車盗	31	4	18	4	4	61
計	102	56	71	98	123	450

	第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
第一軸の平均	-0.582	-0.251	-1.483	0.697	0.898
第二軸の平均	0.899	-1.726	-0.173	0.719	-0.433

- 第1群、駅周辺での犯罪
- 第2群、商業地区の路地裏での犯罪
- 第3群、市の中心部、繁華街での犯罪

- 第4群、スーパー、飲食店、コンビニエンスストアなどの駐車場付近での犯罪
- 第5群、住宅地域での犯罪

第4群と第5群の発生件数の多かった「部品ねらい」と「車上ねらい」は性質が似ていることがわかる。しかし、第1群と第3群については「車上ねらい」の発生件数は多いが「部品ねらい」の発生件数は少ない。これは「部品ねらい」と「車上ねらい」犯罪にかかる時間が大きく影響していると考えられる。自動車の部品を盗む「部品ねらい」は「車上ねらい」に比べ時間がかかるため、人の集まる場所ではすぐに発見されてしまうため行われぬ。よって「部品ねらい」は第1群と第3群が少ないという結果になったと推測できる。

「ひったくり」は第2群での発生件数が圧倒的に多いのは、犯行のほとんどが、自転車や原付で行われていることから、交通量の少ない道のほうが安全に早く逃げることができると考えられる。

7 まとめ

数量化II類で分析した結果、「区」の影響がもっとも大きかった。第一軸、第二軸を始め今回分析には用いなかったが、第三軸以降も区の影響は偏相関係数に大きく表れている。名古屋市は区によってそれぞれの役割が決まっている。中村区や中区、千種区、東区は名古屋市の中心として鉄道網が発達し、それに伴い商業地区が発達している。その周辺に北区や中川区のように住宅地域が発達した区がある。中村区などの市中心部から離れていくと駅やデパートも少なくなる、それに対応して街頭犯罪の件数も影響を受けていると考えられる。また人口や昼夜の人の流れによる要因も区の影響として今回の分析に表れたと考えられる。

中区については、名古屋市の中心部であり、栄や大須など商業地区が発達していることから中村区や千種区より人の集中する場所周辺での犯罪が多いと考えられる。また4本の国道が通っているので交通量の多い道路沿いでの犯罪の傾向も強い。これらのことからひったくり、車上ねらい、自転車盗が多く発生すると考えられる。

8 おわりに

本研究で各街頭犯罪の発生場所の特徴を見つけることができた。また研究を進めるうえで、犯罪の発生場所を1件1件調べたため、名古屋市の区の形態を理解することができよかった。しかし、データ収集が困難であったために時間をかけすぎ、分析が浅くなってしまったのは反省点である。最後に、犯罪が減少し、多くの人が安心して暮らせる世の中になるといいと思う。

参考文献

- [1] 「アトラスRDX東海」:アルプス社,2005.
- [2] 愛知県警察:犯罪マップ,
<http://www.pref.aichi.jp/police/gaitou/map/>.
- [3] Googleマップ,
<http://maps.google.co.jp/>.